

防災気象情報に注意！

大雨 次々と発表される防災気象情報

大雨による災害の恐れがある場合、気象庁はさまざまな防災気象情報を発表します。市はこうした情報を参考に避難に関する情報を発令します。防災気象情報が出されるタイミングやその意味するところを理解しておき、いざというときの避難に役立てましょう。



大雨などに関する情報と熱海市・住民の対応

大雨の状況	気象情報	熱海市の対応	住民の行動
約1日程度前 大雨の可能性が高くなる	大雨に関する気象情報 警報や注意報に先立って発表		●担当職員の連絡態勢を確立する（警戒レベル1）
半日～数時間前 大雨が始まる、強さが増す	大雨注意報 大雨による災害が発生する恐れのあると予想したときに発表		●気象情報や雨量の状況を収集する
数時間～1、2時間前	大雨に関する気象情報 雨の状況や予想を適宜発表		●防災行政無線などで注意呼びかけ（警戒レベル2）
大雨が一層激しくなる	大雨警報 大雨による重大な災害が発生するおそれがあると予想したときに発表	●警戒すべき区域の巡回	●気象情報に気をつける（警戒レベル1）
記録的な大雨発生	大雨に関する気象情報 刻一刻と変化する大雨の状況を発表	●防災所等の準備・開設（警戒レベル3）	●テレビ、ラジオなどから最新の気象情報を入手する
被害の拡大が心配される	記録的短時間大雨情報 数年に一度の記録的な雨が観測されたり、レーダーなどで解析された場合に発表	●应急対応の態勢を確立する	●窓や雨戸など、家の外の確認
広域で多量の3時間・48時間雨量	土砂災害警戒情報 土砂災害の危険度がさらに高まった場合に発表 市長の避難指示などの発令、住民の自主避難の判断等の目安となる情報	●避難指示など発令（警戒レベル4） ●避難呼びかけ	●避難所等の確認（警戒レベル2）
	大雨特別警報 数十年に一度の大暴雨となる恐れが大きいときに発表	●直ちに最善を尽くして身を守るよう住民に呼びかけ	●非常持出品の点検
		●特別警報が発表され非常に危険な状況であることの住民への周知（警戒レベル5）	●避難の準備をする（警戒レベル3）
			●直ちに命を守る行動をとる（警戒レベル5）
			●外出することが危険な場合は家の2階など安全な場所にとどまる（室内安全確保）

雨の強さと降り方

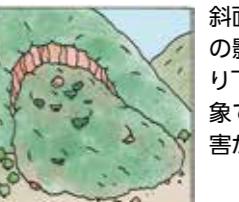
1時間雨量(ミリ)	10以上～20未満	20以上～30未満	30以上～50未満	50以上～80未満	80以上
予報用語	やや強い雨	強い雨	激しい雨	非常に激しい雨	猛烈な雨
人の受けるイメージ	ザーザーと降る	どしゃ降り	バケツをひっくり返したように降る	滝のように降る（ゴーゴーと降り続く）	息苦しくなるような圧迫感がある。恐怖を感じる
人への影響	地面からの跳ね返りで足元がぬれる	傘をさしてもぬれる	傘はまったく役に立たなくなる		
屋内(木造住宅)	雨の音で話し声がよく聞き取れない		寝ている人の半数くらいが雨に気がつく		
屋外の様子	地面一面に水たまりができる	道路が川のようになる	水しぶきであたり一面が白っぽくなり、視界が悪くなる		
車に乗っていて	—	ワイパーを速くしても見づらい	高速走行時、車輪と路面の間に水膜が生じブレーキが効かなくなる（ハイドロブレーニング現象）	車の運転は危険	
災害発生状況	この程度の雨でも長く続くときは注意が必要	側溝や下水、小さな川があふれ、小規模のがけ崩れが始まると	山崩れ・がけ崩れが起きやすくなり危険地帯では避難の準備が必要	都市部では地下室や地下街に雨水が流れ込む場合がある	雨による大規模な災害の発生する恐れが強く、厳重な警戒が必要です。

土砂災害 前兆現象に敏感に

大雨によって土砂災害が発生する危険性が高まった場合、気象庁と県は共同で土砂災害警戒情報を発表するほか、さらに危険性の高まった場合、気象庁は大雨特別警報（土砂災害）を発表します。

ただし同情報は、災害発生箇所や発生時間を詳しく特定するものではなく、あくまでも目安です。大雨などの際、たとえ同情報が発表されていなくても、常に近隣の斜面の状態に注意し、次のような前兆現象に気づいた時には直ちに安全な場所に避難してください。

土砂災害の種類と前兆現象

土石流	がけ崩れ	地すべり
		
前兆現象 <ul style="list-style-type: none"> ●近くで山崩れなどが発生 ●立木の裂ける音や岩の流れる音がある ●渓流の水が急ににごり、流木などがあがまるなど 	前兆現象 <ul style="list-style-type: none"> ●斜面に亀裂が走る ●小石が斜面からぱらぱら落下する ●斜面から異常な音、山鳴り、地鳴りがある ●斜面にふくらみが見られるなど 	前兆現象 <ul style="list-style-type: none"> ●地鳴り、家鳴りがする ●根の切れる音がする ●地面が振動する ●木の枝先のすれ合う音がする（風がないとき） ●亀裂や段差が発生、拡大するなど

土砂災害警戒区域と土砂災害特別警戒区域

土砂災害警戒区域とは

土砂災害によって被害が生じるおそれのある地域です。この区域では、土砂災害を防止するための警戒避難体制が整備されます。

土砂災害特別警戒区域とは

土砂災害が発生した場合に、住宅などの建築物が倒壊し、住民の生命や身体に大きな危害が生ずるおそれがある区域です。この区域で住宅等の建築物を建築する場合などには許可や確認などが必要になります。

※土石等により、著しい損害が生じるおそれのある住宅に対しては、県が移転等の勧告を行う場合があります

住宅の新築・改築には建築確認が必要です

建築確認では、土石等が到達し、住宅に作用すると想定される力に対し、その構造が安全であるかどうかを審査します。

特別警戒区域からの移転に対する支援

特別警戒区域内の施設整備にかかる防災工事や区域外への移転等に対しては、次のような支援措置があります。

■住宅金融支援機構による融資

移転勧告を受け、代替住宅の建設、土地を取得する場合、融資が受けられます。

特定開発行為には許可が必要です

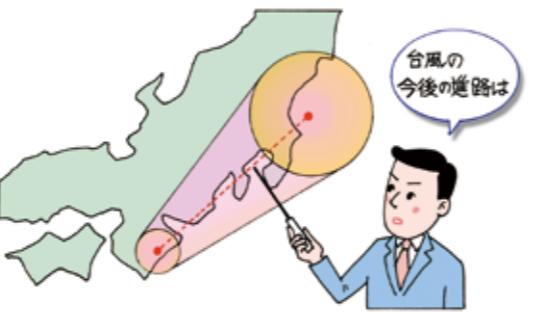
特定開発行為とは次のような用途の建築物を建てる行為を言います。特定開発行為を行う場合には、あらかじめ県の許可を受ける必要があります。土砂災害が発生しても、建築物の敷地に土砂等が流入しないような対策工事が必要です。

- 自己用以外の住宅（住宅分譲、マンション、社員住宅）
- 要配慮者利用施設（幼稚園、老人ホーム、病院など）

災害時の避難行動

台風

台風が接近して災害発生の恐れが高まった場合には、台風情報とあわせて大雨、洪水、暴風、高波、高潮などの防災気象情報が発表されます。



台風の状況と気象情報

台風の状況	気象庁の気象情報	地元気象台の気象情報
台風発生	熱帯低気圧に関する情報 台風情報 現在の状況(3時間ごと)から5日(120時間)先までの予報(6時間ごと) 暴風域に入る確率の発表 5日(120時間)以内に暴風域に入る確率が0.5%以上の地域に対して6時間ごとに発表 台風情報(1時間ごと) 台風が日本に接近し、影響のおそれがある場合 「台風○号は、○日○時ごろ、○○市付近に上陸しました」	台風に関する気象情報(以後、暴風などの状況を適宜発表) 強風、大雨、高潮注意報など 暴風、大雨、高潮警報など 土砂災害警戒情報(重大な土砂災害の恐れがある場合)
台風接近		
台風上陸		

風の強さと吹き方

平均風速(m/秒)	10m以上 ～15m未満	15m以上 ～20m未満	20m以上 ～25m未満	25m以上 ～30m未満	30m以上 ～35m未満	35m以上 ～40m未満	40m以上
予報用語	やや強い風	強い風	非常に強い風		猛烈な風		
およその時速	～50km/h	～70km/h	～90km/h	～110km/h	～125km/h	～140km/h	140km/h～
速さの目安	一般道路の自動車	高速道路の自動車		特急列車			
人への影響	風に向かって歩きにくくなる。傘がせれない。	風に向かって歩けなくなり、転倒する人も出る。	何かにつかまっていると立っていられない。飛来物によって負傷するおそれがある。		屋外での行動は極めて危険。		
屋外・樹木の様子	樹木全体が揺れ始める。電線が鳴り始める。看板やトタン板が外れ始める。	電線が鳴り始め。細い木の幹が折れたり、根の張っていない木が倒れ始める。看板が落下・飛散する。道路標識が傾く。	多くの樹木が倒れる。電柱や街灯で倒れるものがある。ブロック壁で倒壊するものがある。				
走行中の車	道路の吹流しの角度が水平になり、高速運転中では横風に流される感覚が大きくなる。	高速運転中では、通常の速度で運転するのが困難になる。	走行中のトラックが横転する。				
建造物	樋(とい)が揺れ始める。	屋根瓦や屋根葺材がはがれるものがある。雨戸やシャッターが揺れる。	屋根瓦・屋根葺材が飛散するものがある。固定されていないプレハブ小屋が移動、転倒する。ビニールハウスのフィルム(被覆材)が広範囲に破れる。	固定の不十分な金属屋根の葺材がめくれる。養生の不十分な仮設足場が崩落する。	外装材が広範囲にわたって飛散し、下地材が露出するものがある。鉄骨構造物で変形するものがある。	住家で倒壊するものがある。	

警戒レベルと避難に関する情報

災害の危険が迫って居住者の避難が必要になった場合に、避難に関する情報が発令されます。各情報に応じた避難行動をとりましょう

危険度	警戒レベル	避難情報等	住民がとるべき行動
高	5	緊急安全確保※1	命の危険 直ちに安全確保!
~~~~~<警戒レベル4までに必ず避難!>~~~~~			
低	4	避難指示	危険な場所から全員避難
	3	高齢者等避難※2	危険な場所から高齢者等は避難
	2	大雨・洪水・高潮注意報(気象庁)	自らの避難行動を確認する
	1	早期注意情報(気象庁)	災害への心構えを高める

※1 市が災害の状況を確実に把握できるものではない等の理由から、警戒レベル5は必ず発令される情報ではありません。また、警戒レベル相当情報(氾濫発生情報、土砂災害警戒情報など)が発表されたとしても、必ずしも同時に同じレベルの避難情報が発令されるものではありません。

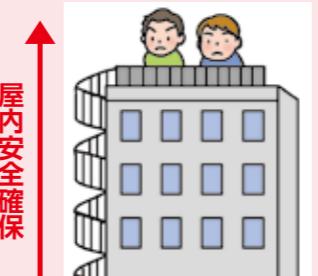
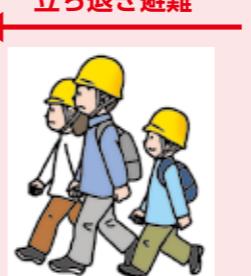
※2 警戒レベル3は、高齢者等以外の人も必要に応じ普段の行動を見合わせ始めたり、避難の準備をしたり、危険を感じたら自主的に避難するタイミングです。



### 命を守る最低限の行動とは

危険な状況の中での避難行動はできるだけ避け、安全の確保を第一に考えます。屋外での移動が危険だと判断した以下のような場合は、避難所等への移動(立ち退き避難)だけでなく、自宅や近隣の頑丈な建物の2階以上へ緊急的に一時避難(屋内安全確保)し、救助を待つことも検討してください。

#### 立ち退き避難



- 夜間や急激な降雨で避難路上の危険箇所がわかりにくい
- ひざ上まで浸水している(50センチ以上)
- 浸水は20センチ程度だが、水の流れる速度が速い

### 雨に注意していますか?

土砂災害の多くは雨から起こります。大雨や長雨で危険だと思ったら、早めに避難しましょう。1時間20ミリ以上、または降り始めてから100ミリ以上の降雨量になったら充分な注意が必要です。



## 平常時から家の周辺をチェック

### ■屋根

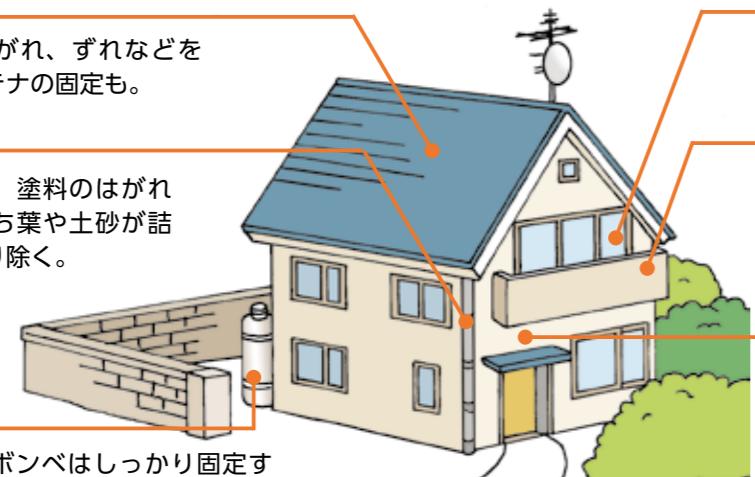
瓦やトタンのはがれ、ずれなどをチェック。アンテナの固定も。

### ■雨どい

継ぎ目のはがれ、塗料のはがれなどを確認。落ち葉や土砂が詰まっていたら取り除く。

### ■屋外の設置物

プロパンガスのボンベはしっかりと固定する。強風で飛ばされたり、浸水で流されたりしそうなものはないか確認する。



### ■窓ガラス

窓枠のがたつき、ゆるみなどがあれば補強する。

### ■ベランダ

強い風で飛ばされそうなものはできるだけ置かない。風が吹いてきたら家の中に取り込む。

### ■外壁・堀

ひび割れ、破損などを点検し、必要があれば補修する。

### ■地下室・地下駐車場

浸水を防ぐ土のうや止水板を用意する。



風雨が強まる中での右の行為は危険です。絶対にやめましょう。

### 「停電」に備える

風水害時の停電への備えとして、事前に携帯電話、LEDランタン、予備の電池やバッテリー、水、冬場の防寒具なども用意しておきましょう。

停電発生時の問い合わせ先

東京電力パワーグリッド  
☎ 0120-995-007

## 自宅の風水害危険度を知る

自宅の風水害危険度を知るためにハザードマップが役立ちます。

ハザードマップを確認して、自宅付近がどの程度の危険度になっているか確認しましょう。ただし、ハザードマップに記載された情報は、「特定の想定」に基づくひとつずつの予測です。マップを活用して防災意識を高めることが重要ですが、頼り切ってしまうのは危険です。いざというときに自ら危険性を判断する能力を養うことが重要です。



### ハザードマップの確認ポイント

- 自宅のある場所の予測される被害程度
- 避難場所の位置、そこに至る経路
- 災害時に危険と思われる場所

※色が塗られていないところが、安全とは言えません。

## こんな土地は要注意です

### 高潮に注意

#### ●海に近いゼロメートル地帯

満潮時の海面の位置よりも低い土地は、堤防が決壊すると大きな被害が出る恐れがある。

#### ●遠浅海岸や湾奥

水深が急激に深くなる遠浅海岸や湾の奥は、高潮が起きたときに海面が上がりやすい。

### 浸水灾害に注意

#### ●平坦地

河川が運んできた土砂が堆積してできた「平坦地」や、過去の河川の氾濫により土砂が堆積してきた土地などは冠水しやすい。

#### ●河川敷

昔、河川敷だった土地は浸水する危険性が高い。

### 土砂災害に注意

#### ●造成地

丘陵を切り崩してつくられた造成地は、豪雨で地盤がゆるむと崩れる危険性がある。

#### ●扇状地

山間部で土石流が発生すると、山のふもとの扇状地が被害を受ける恐れがある。

#### ●山間部

傾斜 30 度以上、高さ 5 メートル以上の急傾斜地は、かけ崩れの危険がある。樹木の少ない山間部の渓流は土石流の危険も。

